

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科	科 目 区 分	専 門 分 野	授 業 の 方 法	講 義 演 習
科 目 名	周手術期・健康危機状況の看護	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) <small>時間(単位)</small>
対 象 学 年	2学年	学期及び曜時限	前期	教室名	
担 当 教 員	山田 君代 安部 孝賢 弓場 理紗子	実務経験と その関連資格	看護師。中河内救急救命センターで看護師として4年勤務。桜橋渡辺病院で主任、師長、副部長として19年勤務。 看護師 総合病院でNICU・EICU・SCUで看護師として勤務		
《科目目標》 ①周手術期にある対象の特性を理解できる。 ②回復過程が円滑に進むための看護の役割および援助を理解することができる。 ③急性期にある対象および家族への看護の基礎となる主要概念や理論を理解できる。					
《成績評価の方法と基準》 【評価方法】終講試験(90%)小テスト、授業態度(10%) 授業態度は初回時に説明する履修上のルールに逸脱していないかで評価する。 【評価基準】優:80点以上、良:70点以上80点未満、可:60点以上70点未満、不可:60点未満					
《使用教材(教科書)及び参考図書》 ナーシング・グラフィカ 成人看護学④ 周術期看護 中島 恵美子編、株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ 成人看護学② 健康危機状況/セルフケアの再獲得 安酸 史子・鈴木 純恵・吉田 澄恵著 株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ疾患と看護②循環器 岡田彩子編 株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ疾患と看護③消化器 明石恵子編 株式会社メディカ出版 ナーシング・グラフィカ疾患と看護⑤脳・神経 田村綾子編 株式会社メディカ出版					
《授業外における学習方法》 下記、授業以外での準備学習の具体的な内容を参照すること。					
《履修に当たっての留意点》 今まで履修した解剖生理、病態生理、臨床検査、臨床治療論、薬理学、成人看護学概論の知識を統合させて急性期にある成人の外科的治療に共通した看護、健康危機状況にある対象の看護を理解していく授業である。看護師になるうえで、必ず理解すべき内容である。成人看護学実習Ⅱに直結する内容であり、復習をして自分の知識が定着するように努力すること。					
授業の方法	内 容			使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 手術に関わる職種や術式について近年の傾向と手術療法を取り巻く状況を知る 2. 外科手術にはどのような方法があるのかを理解する 3. 術前の意思決定やボディイメージの変容などの不安への看護が理解できる	周術期看護 p.24～p.29 p.56～p.68 p.72～p.85	教科書を読んで来ること 周手術期看護
		各コマにおける授業予定	・多様化する治療方法、手術をうけるということとは ・外科的侵襲の種類と機能障害に応じた治療 ・主体的な治療参加への支援、リスクアセスメント、直前の援助		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 麻酔が及ぼす影響(呼吸・循環・自律神経系・消化代謝系・運動器系)が理解できる 2. 侵襲がもたらすホルモンとサイトカインの働きが理解できる	周術期看護 p.32～p.41	教科書を読んで来ること 周手術期看護
		各コマにおける授業予定	・侵襲とは ・麻酔薬による生体の反応 ・生体の損傷に伴う反応		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 手術における身体への侵襲要因が時間の経過とともに身体機能がどう変化するか理解する 2. 手術によって受ける創傷とその創傷治癒過程を理解できる	周術期看護 p.42～p.54	前回の復習をしておく 教科書を読んで来ること 周手術期看護
		各コマにおける授業予定	・創傷の治癒過程 ・周手術期の患者の体験		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	1. 術中体位や麻酔が及ぼす影響と最小限にとどめる看護について理解できる	周術期看護 p.88～p.110	教科書を読んで来ること 周手術期看護 第2部 4術前の看護 5術中の看護
		各コマにおける授業予定	・安全な環境の管理、麻酔体位の介助、術中管理、麻酔覚醒時の支援		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	主な術後合併症を理解する① 主な術後合併症予防のための援助と術後合併症出現時の援助を理解する①	周術期看護 p.112～ p.128	教科書を読んで来ること 周手術期看護 第2部 6 術後の看護
		各コマにおける授業予定	呼吸器合併症 循環器合併症 術後腸閉塞(術後イレウス) 術後感染		

授業の方法	内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	授業を通じての到達目標	主な術後合併症を理解する② 主な術後合併症予防のための援助と術後合併症出現時の援助を理解する②	周術期看護 p.129～ p.154	教科書を読んで来ること 周手術期看護 第2部 6 術後の看護
	各コマにおける授業予定	縫合不全 肺血栓塞栓症、深部静脈血栓症、術後せん妄 術後の継続看護の必要性と実際 継続看護を支える看護師間・多職種間の連携		
第7回	授業を通じての到達目標	循環器系に障害のある人の手術とその看護支援を知る (虚血性心疾患)	周術期看護 p.182～ p.186 疾患と看護 ②循環器	循環器の解剖生理、疾患の復習を行っておく 教科書を読んで来ること
	各コマにおける授業予定	狭心症の病態と主な治療の理解 心筋梗塞の病態と主な治療の理解 冠 状動脈バイパス術についての理解 狭心症の手術を受ける人の看護		
第8回	授業を通じての到達目標	循環器系に障害のある人の手術とその看護支援を知る	周術期看護 p.187～ p.194 疾患と看護 ②循環器	循環器の解剖生理、疾患の復習を行っておく 教科書を読んで来ること
	各コマにおける授業予定	心臓弁膜症の病態、治療方法と心臓弁膜症の手術を受ける人の看護		
第9回	授業を通じての到達目標	循環器系に障害のある人の手術とその看護支援を知る	周術期看護 p.195～ p.200 疾患と看護 ②循環器	循環器の解剖生理、疾患の復習を行っておく 教科書を読んで来ること
	各コマにおける授業予定	大動脈解離の病態、治療方法と大動脈解離の手術を受ける人の看護		
第10回	授業を通じての到達目標	循環器系に障害のある人の手術とその看護支援を知る	周術期看護 p.201～ p.207 疾患と看護 ②循環器	循環器の解剖生理、疾患の復習を行っておく 教科書を読んで来ること 周手術期看護第3部 循環器系に障害のある人の看護
	各コマにおける授業予定	閉塞性動脈硬化症の病態と治療		
第11回	授業を通じての到達目標	脳神経系に障害のある人の手術とその看護支援を知る	周術期看護 p.264～ p.268 疾患と看護 ⑤脳・神経	脳血管及び病態について予習しておく
	各コマにおける授業予定	脳腫瘍の種類によって異なる症状、治療法 脳腫瘍手術後の経過と、経過に応じた看護のポイントについて		
第12回	授業を通じての到達目標	脳血管障害(クモ膜下出血)の病態や治療過程、経過に応じた看護のポイントを理解できる	周術期看護 p.269～ p.275 疾患と看護 ⑤脳・神経	脳血管及び病態について予習しておく
	各コマにおける授業予定	脳血管障害の病態や治療の過程について ・くも膜下出血の術後の経過と、経過に応じた看護のポイントについて		
第13回	授業を通じての到達目標	胃癌の病態と外科的治療に伴う身体的影響、手術後の経過に応じて必要とされる看護について理解できる	周術期看護 p.217～ p.223 疾患と看護 ③消化器	消化器系の解剖生理、疾患の復習を行っておく
	各コマにおける授業予定	胃癌の病態や検査・外科的治療方法について 胃癌手術後の経過に応じて、必要な看護ののポイントについて		
第14回	授業を通じての到達目標	大腸癌の病態と外科的治療・術後経過と合併症、その看護について理解できる	周術期看護 p.224～ p.232 疾患と看護 ③消化器	消化器系の解剖生理、疾患の復習を行っておく
	各コマにおける授業予定	大腸癌・直腸癌の病態や外科的治療方法について 術後経過と合併症、経過に応じた看護のポイントについて		
第15回	授業を通じての到達目標	終講試験		
	各コマにおける授業予定	終講試験		